

津波から身を守ろう

東日本大震災では、死者の9割以上が水死であり、そのうち身元が判明した人の6割以上が60歳以上でした。津波から身を守るには、津波の特徴を理解して早めに避難することが重要です。

【津波の特徴】

津波の速さ

海岸近くでの津波のスピードは、時速約36kmで、オリンピック短距離選手並みの速さで襲ってきます。



日本の裏から襲ってくることも日本から遠く離れたペルーやチリから、20時間以上かけて津波が到着する場合があります。



【津波からの避難のポイント】

即座に避難

津波注意報・津波警報・大津波警報は、テレビやラジオ、防災行政無線で伝達されます。大津波警報などを確認したら、いち早く海岸から避難しましょう。



高台に避難

近くの高台へ避難しましょう。高台がない場合は、3階建て以上の建物へ避難しましょう。津波は、繰り返し襲ってくるので、津波警報などが解除されるまでは、継続して避難する必要があります。



イラスト出展：消防庁ホームページ (<http://www.fdma.go.jp/index.html>)

文化財

かいかわ みしまじんじしんじふさう
大洲市指定天然記念物
三島神社所有



本社叢は、戒川にある三島神社を中心とした南南西から北北東の緩斜面上に広がり、約80aの規模を有します。

三島神社は、保元2年(1157)に祀られたとされる由緒ある神社で、本社叢が荘厳とした雰囲気を出しています。シイやカシ類を中心とした常緑広葉樹が生い茂る本社叢は、ツブラジイ、タブノキ、アラカシ、モミなど80種以上の木本類が確認されています。さらに、ウラジロソウ、モウセンゴケや、絶滅危惧Ⅱ類(環境省選定)とされているウエマツソウなど130種以上の草本類、シダ類も観察することができます。

日本の暖帯林本来の姿に近い景観がよく保護されていて、学術上も貴重な社叢といえます。

(昭和51年5月18日指定)

野鳥

アカゲラ(赤啄木鳥)
キツキ目キツキ科
全長 23.5cm



アカゲラは、ムクドリくらいの大きさで、体の色は赤・黒・白の3色です。県内では大変珍しいキツキの仲間です。国内では、北海道、本州に多く生息し、四国での生息はきわめて少なく、県内では過去4例しか観察記録がなく、そのうち2例が大洲市で観察されました。もしかしたら、少数は繁殖しているのかもしれませんが。

アカゲラによく似たオオアカゲラは、標高500m以上の林で出会うことがあります。大洲で観察されたアカゲラ2羽のうち、1羽のメスは標高150mくらいの山中、もう1羽のオスは大洲城で観察されました。

森林の多様性があり、素晴らしい里山が点在し、いろいろな種類の野鳥が生息している大洲市は、人間にも素晴らしい環境だということを証明しています。いつまでも自然豊かなわがふるさとを、後世に残したいと思います。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト

新谷藩主加藤家の文化財 第五幕

加藤泰儔（かとうやすとも）

加藤泰儔は、天明3年（1783）、6代藩主加藤泰賢の子として江戸に生まれ、文化7年（1810）、父の隠居に伴い家督を相続しました。

泰儔が藩主に就任したころは、藩財政が破綻の危機となったため、本家大洲藩が新谷藩の政治・財政全面にわたって管理を行っていましたが、文化10年（1813）両藩話し合いの上、行政面のみが先に新谷藩へ戻されました。

翌年、本家支配の年限が明けますが、引き続き領内には厳しい儉約や風紀の粛正を命じるほか、税制も3年間は、収穫前に米の生育状況を調べて豊作・凶作によって税率を決定する「検見取」から、各村々の過去数年の実収入の平均値によって一定の税率を決定する「定免」とするなど財政難打開に努めました。

しかし、こうした財政難のなか、泰儔は駿府御加番、江戸城の鍛冶橋、幸橋・呉服橋などの諸門番を勤めたためか、天保元年（1830）には、江戸藩邸における借入金が多くなったことから、領内の各村々に御用銀を割り付けけるなど

して、借入金の減額を図りました。また、文化9年（1812）には、

大洲藩の大洲村と新谷藩の阿蔵村との間で起った水争い（竹之窪水論）をうけて、両藩では紛争の禍根を絶つための打開策として、お互いの村の交換を行いました。これにより新谷藩であった阿蔵村と梅ノ川村は大洲藩へ、大洲藩であった一木村と北山村（喜多山村）、大南村（現在の砥部町）の一部は新谷藩へと移りました。

泰儔は、天保2年（1831）隠居すると、翌年持病の疝癪（胸や腹などがさしこんで痛む病気）と足痛について、道後温泉の湯を汲み寄せて湯治を図るため新谷へ引き移りました。

嘉永2年（1849）、剃髪して誠翁と称すると、明治4年（1871）新谷において89歳で没しました。泰儔は、これまでの藩主とは異なり神葬とされ、新谷藩邸近くの楓山に葬られました。



加藤泰儔の墓所

大洲商工会議所青年部 大洲ご当地クイズ

毎年11月3日（文化の日）には、大洲まつり・おおぞ浪漫祭が開催されます。

今年のおおぞ浪漫祭のイベントとして、第3回大洲ご当地クイズ大会を開催しました。油屋駐車場を会場とし、200人が参加して行われ、20人に豪華景品が当たりました。大洲を知って好きになってほしいと始めたクイズ事業。少年が自慢げに「俺、この答え知ってる」と、こちらを見てニッコリ笑顔。その少年が、自分の故郷に誇りを持ってくれる事を信じて、これからも大洲ご当地クイズを続けていきたいです。

【今月のクイズ】

南予地方を舞台に、2016年3月から始まるイベントは何でしょうか。

- ① えひめいやしの南予博
- ② 南予の笑顔でいやし旅
- ③ なんよ丸ごといやし博



【先月号のクイズの解答・解説】

伊予灘ものがたりが通過する五郎駅。その駅で、一風変わった格好をした駅長がお出迎えしてくれます。どのような格好をしているのでしょうか。

- ① タヌキの格好
- ② キツネの格好
- ③ ネコの格好

解答…①

解説…五郎駅は無人駅なので普段駅員さんはいませんが、伊予灘ものがたりが通過するときは、近所に住んでいる人が駅周辺やプラットホームに集まり、お出迎えするそうです。

五郎駅のほかにも、大洲城での旗振り活動など、市民も一緒になって地域をPRしようとしている姿はとってもいいですね。



※今月のクイズの答えは、広報大洲1月号に掲載します。

シリーズ・大洲市地域づくり表彰

平成26年度「大洲市地域づくり表彰」を受賞されたみなさん（4個人、9団体）を、シリーズでご紹介します。



地域づくりに貢献

新谷商工会

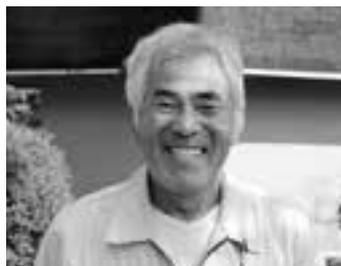
会長 亀岡 玄良さん
(新谷)

「多くの人に祭りを楽しんでほしい」

新谷商工会は40年以上の歴史があり、現在は「新谷しょうぶまつり」「稲荷山もみじまつり」の開催や、夏祭りの運営などを主な活動としています。

人手を必要とするしょうぶ園や稲荷山の管理には、地元の中学、高校生をはじめ、地域のみなさんが積極的にボランティアで協力してくれていて、地域としてのまとまりを感じます。

今後も祭りなどを通して、多くの人が集う親睦の場を提供し、新谷地区の良さを多くの人たちに知っていただくために頑張ります。



地域づくりに貢献

正山風の会

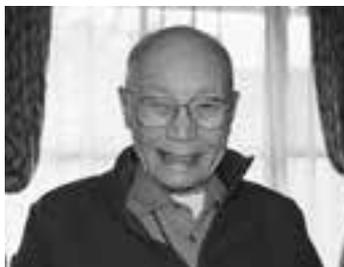
会長 吉田 博和さん
(正山)

「知恵を出し合い、地元を盛り上げたい」

平成元年に結成された正山風の会は、現在約40人のメンバーで活動しています。毎月1回の津の内園地周辺清掃のほか、暑中見舞いや年賀状の巨大看板制作、お盆時期の巨大イルミネーション設置、ソバやムギ作りなど、精力的に取り組んでいます。

活動自体も大事なことですが、メンバー同士が活動を通じて楽しく交流できることが、ここまで継続できている理由の一つだと思います。

これからも、地元を盛り上げるためのアイデアを、みんなで出し合っていきたいと思っています。



地域づくりに貢献

遊鼓太鼓

会長 三生 時光さん
(正山)

「地域がひとつになって文化継承を」

遊鼓太鼓は、年が明けると同時に1年間の地域の安全や無病息災、五穀豊穡を祈って行う「出発太鼓」をはじめ、文化芸能発表会や敬老会など、年間5～8回の公演を6人のメンバーで行っています。

遊鼓太鼓の特徴は、ギターや三味線の音を取り入れたオリジナル曲を中心に演奏していることです。

正山地区のみならず、肱川町にはさまざまな伝統芸能があります。世代を超えた交流と文化の継承を目的に各団体と声を掛け合い、共に盛り上げていく環境ができれば、と思っています。



青少年育成に貢献

みよし体験塾

塾長 松岡 孝幸さん
(三善)

「子どもたちの心に残る体験を」

みよし体験塾は、地域での体験や学習を通して、子どもたちのたくましさや自主性を育成することを目的に設立され、年間5回ほどの活動を行っています。今年度も、毎年好評のグラウンドゴルフに始まり、ほたる観賞会や防災体験、手打ちうどん作りなどを行い、保護者も含めて毎回50人以上の参加がありました。

毎年新しい行事を取り入れるよう工夫していて、その活動には地元の団体の協力が不可欠です。今後も当塾の活動を通じ、地域全体で子どもたちの健やかな成長を見守っていきたいです。





10月19日(月)

好きな本はあるかな

～図書贈呈式・新谷保育所～

心豊かな子どもの成長を願い、読書活動の充実を図ることを目的として、国際ソプロチミスト大洲から市内の保育所に図書が贈呈されました。

この日は、新谷保育所で贈呈式が行われ、昆虫図鑑や絵本など約30冊の図書が贈られました。受け取った児童からは「たくさん本をありがとう。大切に読みます」とお礼が述べられました。



10月18日(日)

秋の恒例行事

～河辺ふれあいフェスタ2015～

すがすがしい秋晴れのもと、「河辺ふれあいフェスタ2015」が開催されました。

この日は、浪曲の披露や大洲オールド・バンドによる演奏、各種バザー、発表会、お楽しみ抽選会などの催し物が行われました。

来場されたみなさんは、河辺の秋を感じながら、楽しい一日を過ごしました。



10月21日(水)

肱川予子林チームが快挙

～愛媛県老人クラブスポーツ大会～

県総合運動公園で開催された「愛媛県老人クラブスポーツ大会」クロッキー競技において、肱川予子林チームが参加した44チームの頂点に立ちました。

「1勝すること」を目標に競技を楽しんでいたメンバーでしたが、難しいロングショットが決まったり、的確な戦略が功を奏して順調に勝ち星を重ね、今回の優勝につながりました。



10月18日(日)

出会いと交流のひととき

～「第21回今坊ふれあい祭り」～

長浜しおさい館の広場で「今坊ふれあい祭り」が開催され、長浜中学校吹奏楽部の演奏や長浜保育所児童による踊り、地元獅子舞保存会の演舞などが行われ、会場は大いに盛り上がりました。

また、県立八幡浜工業高等学校の生徒により制作された長浜大橋（赤橋）の模型（25分の1スケール）が展示され、来場者の目を引いていました。

大洲市合併10周年記念事業 第60回市民音楽祭を開催

今年で60回を迎える市民音楽祭が、11月1日(日)「洋楽の部」・8日(日)「邦楽の部」の2日間開催されました。

1日(日)には、発表会に先立ち第35回市民文化祭ポスター表彰式があり、最優秀賞に選ばれた平野小学校5年生坪田海琉さんに、賞状と副賞が贈られました。

発表会では、市内のコーラスグループや高校、同好会、愛好会のみなさんによる発表が行われました。また、60回を記念して、T. J. P. P. A. L. (ティー・ジェイ・パール)と橋本岳人山さんがゲストとして出演されました。



大洲のええモンが一堂に

大洲市合併10周年記念事業 第6回大洲産業フェスタ2015

昨年は、台風の影響により中止となった大洲産業フェスタが、10月12日(月)、晴天に恵まれ盛大に開催されました。

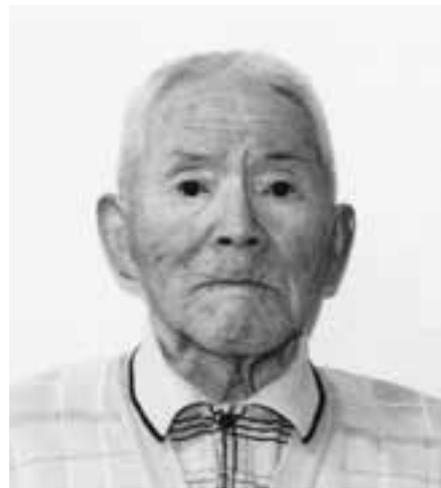
会場には、市内外から46の事業所や高等学校、団体の展示販売ブースが設けられ、伝統和菓子や大洲ええモンセレクション認定品など、大洲ならではの商品販売が行われました。

また、ステージでは徳田耕太郎さんのパフォーマンスなどのイベントも行われ、詰め掛けた多くの観衆の目を楽しませていました。



高齢者叙勲

瑞宝双光章



久保田 嘉 男さん
(喜多山)
元菅田小学校長

久保田さんは、長年にわたり学校教育に尽力されたご功績により、このたび「瑞宝双光章」を受章されました。

瑞宝双光章



山中 久 夫さん
(五郎)
元粟津小学校長

山中さんは、長年にわたり学校教育に尽力されたご功績により、このたび「瑞宝双光章」を受章されました。



市内の戦没者や公務殉職者を追悼するため、平成27年度大洲市戦没者・消防および公務殉職者合同追悼式が10月29日(木)、大洲市民会館大ホールで行われました。

開会にあたり清水市長は「今年、先の大戦が終わりを告げてから、70年の節目の年を迎えた。現在の繁栄の陰には、過去の尊い犠牲があったことを忘れてはならない。世界では、いまだに争いが絶えず、平和への道のりはまだまだ遠い。今後お互いに力を合わせ、平和と繁栄を目指し努力していきたい」と式辞を述べました。



今回の追悼式に、市内各地から約400人の参加があり、戦没者1166柱、消防・公務殉職者14柱の英霊に対し、黙とうや献花などが捧げられました。

遺族を代表して、遺族会大洲支部の都築小富さんが「終戦から70年の節目の年を迎えた。国民の多くが戦争を経験していない世代になった。戦争は、尊い命だけでなく平和という宝まで奪ってしまふ。平和の大切さを子や孫に伝えていくことが、私たち遺族の使命だと思ふ」とあいさつをされました。

平成27年度大洲市戦没者・消防および公務殉職者合同追悼式

日本一の美容師に

10月20日(火)に札幌市で行われた「全日本美容技術選手権大会(花嫁化粧着付部門)」に出場した、上野知子さん(若宮)が見事に日本大賞に輝きました。

今回の栄冠に輝いた上野さんは「県の代表として全国大会出場が決まってからは、今治市の先生の元に泊まり込みで、優勝を目指して練習に励んだ。審査発表で名前を呼ばれた時には、喜びや感動よりも良かったという安心した気持ちになった。これからは、日本大賞を受賞した自覚と責任を持ち、今まで以上に地域みなさんに喜んでもらえるよう頑張りたい」と喜びと抱負を語られました。



地域の安全に貢献

第8回地域安全功労者表彰が行われ、地域の防犯活動などに取り組まれている松岡昇平さん(成能)が受賞されました。

この表彰は、国家公安委員会所管のJP生きがい振興財団が、平穏な地域社会の確保のために住民から高い信頼を得ている警察職員、または、警察に多大な貢献をしている地域住民を顕彰するものです。

10月20日(火)、鈴木典男大洲警察署長から表彰状の伝達を受けた松岡さんは「地域のみなさんのご協力のおかげにより、荣誉ある賞を受けることができ、大変ありがたく思う。今回の受賞を励みに、これからも地域の安心安全に努めたい」と話されました。



幼い命を守るために

～五郎保育園不審者対応訓練～

不審者が園に侵入した時を想定した不審者対応訓練が10月27日(火)、五郎保育園(矢野智子園長・園児67人)で行われました。

凶器を持つ不審者を装った大洲警察署員が園庭に侵入すると、職員が声掛けなどで対応しつつ窓ガラスをたたき教室内に異常を知らせ、全ての窓に鍵を掛け園児を安全な部屋に避難させました。園庭では、複数の職員で対応し、それぞれがさすまたや鉄の棒を使って不審者が園舎へ侵入することを阻止しました。



西川警部補からは「警察が到着するまでに、平均で約7分かかる。その間、なるべく大勢で対応してほしい。不審者の動きに合わせて、園児たちの逃げる場所を変えてほしい」と講話がありました。

矢野園長からは「対応していた時間がとても長く感じた。実際に不審者の侵入があつてはならないが、万が一の時にはきちんと対応したい」と話されました。

五郎保育園では、毎年防犯訓練を実施されていて、園児が安心して通園できる環境づくりに取り組まれています。



大洲市合併10周年記念事業 大洲まつり・おおず浪漫祭

大洲まつり・おおず浪漫祭が11月2日(月)・3日(火)に開催されました。

初日の2日(月)はあいにくの雨でしたが、大名行列や子どもみこしのパレードが行われ、華麗で厳かな行列が沿道のみなさんを楽しませました。また、夕方から大洲城前広場などで、スライドムービーやステージイベントが行われ、来場者を魅了しました。

二日目となる3日(火)は、肱川緑地公園で「おまつり村」が、おはなはん通りで「おおず浪漫祭」が行われ、多くの来場者で盛り上がりました。



地域をあげて「大和太陽の広場」

10月18日(日)、大和地区で恒例の「太陽の広場」が開催されました。快晴に恵まれ、会場となった大和小学校には、地域住民をはじめ、市内外から家族連れなど大勢の来場者が集いました。

第1部の「みんなで走ろう・歩こう」では、参加者がそれぞれの体力に合わせてゴールを目指しました。第2部の「ふれあい広場」では、作品展示やバザー、各種コーナー、大和小学校児童による「豊年踊り」などの芸能発表が行われました。最後は、盛大に餅まきも行われ、会場は大いににぎわいました。



平成27年度大洲市保育所食育コンクールを開催

食育について楽しく考える機会の創出と、食に対する意識の向上を目的に、市内の公立・私立保育所の4歳児クラス以上の入所児童を対象として食育絵画を募集しました。入賞した作品をご紹介します。(応募総数425点)

総合部門

【市長賞】



「みんなで食べる おべんとう」

川口 由利愛さん

(大洲保育所)

4歳児クラス部門

【金賞】



「とりたてのやさい おいしいな!
おきゅうしょくいただきます!」

森本 星那さん

(徳森保育所)

【銀賞】



「大きいおいものがたべたいな!」

今宮 梅花さん

(喜多保育所)

【銅賞】



「スイカだいすき!」

山崎 莉愛さん

(肱南保育所)

5歳児クラス部門

【金賞】



「自分がとったとうもろこしが
とってもおいしかった」

山本 遥斗さん

(徳森保育所)

【銀賞】



「ぶどうがり」

谷口 蓮太さん

(大和保育所)

【銅賞】



「おおきなスイカがとれたよ」

尾神 彩樹さん

(新谷保育所)